京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

興來吟咏

想 堂

吾人が最も深く最も強く吟咏して愛誦するものは英國の詩伯ウオーヅウオースの詩集なり、實に詩伯は自然の崇拜者にして、絕高の思想を有し、永久の和力を有す、而して其の思想は神秘幽玄にして其の和力は深遠閑雅なり、夫れ天眞の美を發揮して吾人に天眞の生命を與ふる者は實に詩伯ウオーヅウオースの詩集なり、亦吾人は英國の詩人シエレーの名作を愛吟するものなり、夫れシエレーの詩は敍情詩的にして彼の雲雀の歌は其の最も天才を發揮したるもの也彼のスコットの湖上の美人は人口に膾炙せらるゝと雖も其の詩たるや、形式に縛せられたる所なきにしもあらず、バイロンの詩亦然り、獨りシエレーに到りては人工に成立せずして神來の候に由りて得たるもの也其の人と成るや、溫良恭謙にして人品高尚なり、上は偉人君子を喜び、下は不幸短命を憐み、朋友と交るに信義を以てす、其の情は慷慨を以て溢れ、其力は想像を以て富み、而して天地の眞美を歌へるもの也、

次に吾人の知りたるはブライアントの詩なり、ブライアントは北米第一流の詩人にして自然の愛者なり、其の人品は瞑想默思にして天與の才情を有し、詩風は醇雅優美にして天與の特色を有す、常に俗界の煩惱を脫して自然の幽靜を愛し、而も春風秋來に觀念を高め、情想渇くして米國の思想界に善良なる感化を與へたる詩人なりき、實に水鳥を一吟すれば胸中自ら天恩を萬謝し妙音に感激す、其の風調は優美を盡し、其の辭句は精錬を極む、又死觀は英文學中不朽の名詩にして、天地の幽玄を覺らしめ、且つ人生の無常を知らしむ、是れ實にブライアント生涯の傑作と云ふべし、

次に吾人は詩伯テニソンの詩に付きて一言せん、實にテニソンの一生は平穩無邪にして、奇なく又怪なく眞に大器晩成の人情詩人なり、夫れ詩伯テニソンの詩は音調絕妙にして纖巧華麗なりと雖もウオーヅウオースの詩の如く深遠の思想なく又神秘の幽玄なし、故に一度愛吟すれば二度翫味せんと欲する念起らざる也、然れども天下一般の稱讃を得て喝采し嘉許せられたりき、是れ全く深遠の思想なく又神秘の幽玄なく、平易簡明にして童蒙婦女子にも了解せらるゝ所以ならんか、

天下の文士は英文學とさへ言はゞセークスピーヤ、ミルトンを主唱す、無論英文學研究者はセクスピーヤも熟讀せざるべからす又ミルトンも翫味せざるべからず、一は人情の奧義を說き、一は化物の物語に過ぎざる也、故に吾人はセークスピーヤの愛讀者にもあらず、又ミルトンの愛吟者にもあらざる也、唯ミルトンのリシダス一篇を愛吟するのみ、

特に吾人の愛吟詩はグレーの悲歌なり、是れ夙く世界の人々に膾炙せらるゝ名篇なれは別に駄辭を試みざる也、

最後に到りて吾人はスコットの湖上の美人に付きて一言せん、此の詩は形式に縛せらるゝ所なきにしもあらざれど所々風景の色調を有し所々絕妙の句調を有す、而も自然と人事とに配合の妙を得たるは凡詩人の及ばざる特色なり、彼の詩伯テニソンの詩集と此のスコットの詩集とは童蒙婦女子に進呈すべき最善最良の詩集と云ふべし、

文苑

●百人一首讀替（三） ましこ女史投

○參議篁
漕出でぬせど綸かけでめれど島
人につげなよ今夜の舟出を

○陽成院
筑紫潟しづむわがみは厭はねど
れもひつもりし戀の乙女子

○河原左大臣
不忍のいけの邊りのさくらはな
たれ江ろめしか亂さきする

○光孝天皇
誰がため思ひぞれふき文ぞする
うすきねにしの君やうらせむ

○中納言行平
いざさらば茲に別れむ高麗の原
七度たづねともにかへらむ

○在原業平朝臣
ときならぬ瀰生の空にゆきぞ降
伊井櫻田はくれないにそむ

○藤原敏行朝臣
月ゃかく岸邊によする波しづか
ゆきこうひとに心れくらむ

新刊紹介

●東京經濟雜誌 本號の主要記事は「國債の償還と外資輸入」「伊藤統監辭任の議」「日豪貿易の發展策に就て」「文部の威信と國家の利害」等外數種なり（一四九二號十二錢東京橋區彌左衛門町東京經濟雜誌社）

●特許公報 本號に揭載せる發明目錄は「腹掛バッチ」「剛性チール」「北村式二重製鑑釜」「橫村式改良金庫」「外廻二重鏡框」等なり（九號十五錢京城日韓書房發賣）

●芳譚 「天下太平論」「高等貧民」「心機一轉」等何れも面白し（五號五錢東京下谷區徒士町芳譚雜誌社）

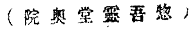
●月報 四月二十六日より五月廿五日迄に於ける仁川の貿易物價金融統計實業資料等を詳記せるもの一般の參考となるべし（七號仁川商業會議所編纂）

佐倉宗吾（九十三）

眞龍齋貞水講演

名主の新五郎が、百姓一同に宗五郎を助けてくれと云ふぜ、百姓は 百『宜しうござります 新『役人なんて何うでも宜い、宗吾殿さい助ければ宜い、後の始末は斯う〳〵云ふ工合に俺が凝た振をして潜し込んでゐるから、お前達は宗吾殿を助けて遣つたら、自家へ歸つて熟眠んで居て、後で知らせたら、其時皆なが來てくれ、ナアニ役人なんて打毆つたつて、顔さい包んで、獲物を取られないやうにする掴まることは無いから 百『宜うがすと皆なが頭巾を冠り、手拭を冠り、鋤鍬、鳶鍬、鶴嘴なんどを引携いで、ツッと出て來る、すると滑川の觀音堂の前で、井筒屋五郎兵衛は、三人の若い者と共に、斬掛つて來る役人の向うへ立塞つて、遮るまいとしてゐる、此方は土手の處で、目明幸兵衛は、宗五郎を組伏せ、ふん縛らうとすると、宗五郎は擧丸を蹴上げて逃げやうとする 幸『オウ痛てゑ、何をしやがる神妙にしろツ』と云ふて居るから百姓は突如馬鍬で、幸兵衛の髷ツ節を引掛けた、金で拵へた熊手のやうな馬鍬で頭の髪を引張つたから、アッと云ふと仰向けに引摺り倒された、藪の馬鍬と云ふ事かあるが斯りや本統に藪から馬鍬でございますると、又一人駈けて來ると、鋤の平で幸兵衛の横ツ面ポカーンと撲つたから、ウームと云ふと、幸兵衛氣絶して仕舞つた其間に宗五郎はバラ〳〵ッと先方へ逃げる其内に此方は百姓『此畜生奴ッ』と役人に向つて來る、何處から出て來たか、突然飛んで來てポカ〳〵ふん撲つから、役人は、頭を打挫かれる、腕を折られる、鋤だの鍬だので、飛込んで來てぶん撲る、之がため井筒屋五郎兵衛親分子分、僅に四人の者が手に終いぬで、何うしてくれやうと云ふ所へ此樣な者が出て來たから、忽ちの間、一同の役人が其處へ打倒されて仕舞つた、固より事を好まぬのでございますから、井筒屋五郎兵衛は此の間に逃げろと、バッと宗五郎の後を追つて、ドン〳〵引き揚げました、百姓も宗五郎の逃げたのを見濟まして慘々役人を打挫いて、バッと何處へ行つて仕舞つた 甲『アゝ痛い、何うした御同役 乙『ア痛い、酷い目に遭はせやがつた、斯りや滑川の百姓に相違ござらぬ 甲『然らし〳〵、それに相違ござらぬ、ア、痛い 乙『殘念ながらスッカリ取捲いた宗五を逃した』と口惜がる、目明幸兵衛は、頭を鋤で撲られ 幸『ウーム、ウーム』と唸つて居る 丙『幸兵衛確乎しろ 幸『エー、勝ら確乎しろと仰つしやつても鋤や馬鍬で撲られちや仕樣がございませぬ、斯りや當村の百姓共に相違ございませぬ 丙『それに違ゐない』此方は百姓みなドン〳〵逃げて來て、名主の裏手からソッと這入る、新五郎が 新『如何した、宗五郎であつたか 百『公津の旦那に違ひございませぬ、何うも繋を懸ける事は出來ませぬでしたが、身体を丸くして逃げさつした所は、確かにそれに違ゐありませぬ 新『確かにそれに違ゐないか 百『確かにそれに違ゐございませぬ』常使の助十が 助『私は飛出して、公津の旦那樣を確かに見ました、うれに相違ございませぬ、何でも旦那樣が追ひ付かれやうとする内に、追つ付かれないで、旦那樣の方が早かつたから、彼の分ぢや、好い案排に無事に遁れさしつた事でございます、結構でございます 新『ア、それぢや宗五どんに違ゐなかつたか、ア、宜かつた、是と云ふのも、成田の不動樣を信神し、又は鎮守樣を信神した御利益で、宗五どんの危難を救つた、ア、是で少しは嬢縁の役も立つた、併した前方獲物を置いては來なかつたか 百『ハア、三十八で出まして、三十八が皆な手に手に物を持つて歸つたんだから、手拭一筋、鍬一挺、置いて來た者はがアせん、大丈夫でござゐます 新『然うか、うれお今先刻云つた通り、竹法螺を吹いたら、裏の方へ廻つてくれよ 百『ハア宜しうございます』と手に手にコソ〳〵引取つた

泰生


（悠吾靈堂奧院）

京城新報

各部廢合論
韓政府組織變更

統監の更迭と共に統監府及韓國各部の官制を改革するとか、或は官吏の淘汰を行ふへしとかの説一方に傳はり、亦一方に於ては之を非認して當分現在の儘にして何等の改革もなさずとの説もあり、所説紛々として確たる事を知る能はずと雖も、要するに此機會に於て統監政治を一新し眞個に保護政治の實を擧るに努めざる可らず、從來伊藤統監の施設は余りに機關のみ復雜にして統一上に困難あるのみならず、執務の簡捷を缺きて却て政務の澁滯を來たすに至る、文明を解せざる國民を統ぶるに文明國と同一の機關を備ふ、日本の官制を其儘半開國たる韓國に移す、其適せざるや知るべきのみ、之が爲に統監は常に内閣大臣の統一に懊惱し其調和に忙殺せられんとし、人民の請願に對して、其所管の明かならざる爲に、請願者は各部を飛廻るの奇觀少からず而して各部の官吏は其請願が何れの所管なるかを研究するに日も足らざるの狀態ありと云ふに至りては殆ど滑稽に屬す、斯の如く統監は大臣の調和に懊惱し、人民は請願事件の所管明瞭ならざる爲に容易に願意を達する能はざるが如きも、畢竟政治機關の復雜なるが爲也、此復雜繁冗なる機關を革めて韓國現時の程度に適當せる機關を置き政務の簡捷を計らざれば保護政治の實を擧る能はざる也、所謂華を去り實を取る策を取らざる可らず、余輩は曩にも政務を簡捷にするの必要を認め各部の廢合を唱道したりき、今や統監更迭の機會に於て此廢合を斷行するは最も機宜に適するものたるを信じ再び廢合論を唱道せんとす。

實際韓國の現狀に於ては度支部、農商工部、法部、内部、學部、軍部に各大臣を置きて分立せしむるの要を見ず、曾に要を見ざるのみならず、前に述るが如く之が爲に所管の爭を起し統一上の障害を生ず、故に之を廢合して機關を縮少するは却て政務を敏捷ならしむる所以也、然らば如何に之を廢合すべきか、先づ農商工部を廢して其事務を度支部に移し、學部を内部に、法部の事務を大審院に、軍部は全然廢して現在の親衛隊は宮内府に於て取締れば可也、斯くして内部と度支部に大臣を置き、統監自ら總理大臣となり責任の衝に當り指揮命令することゝせば、政務は敏活簡捷に行はれて從來の弊を革むることを得べき也、統監府の如きは地方部と外務課に少數の官吏を存置すれば他は總て廢するも差支なし、總理大臣所管の下に法制局を置き立案調査せしむる事とせば監査部の如きは無論廢すべきもの也、參與官會議の如きは實際必要を認めず從來の經歴に徵すれば明に其然るを了解することを得べし、統監にして總理大臣となり全責任の衝に當りて政務を執行するに於ては大臣の調和や種々なる情實の爲に懊惱することもなく、專に保護政治の實を着々進捗することを得べし、斯の如くして權威の下に帝國の保護統治は完全に行はるべき乎、若し然らずして從來の儘ならば統監の指揮命令は透徹せず從て帝國の使命を完ふする能はざる也、如上の趣意を以て余輩は統監の更迭を機として此廢合を斷行せんことを望むもの也。

東京電報

▲法制局參事官渡韓
法制局參事官中川謙三氏は韓國へ出張を命ぜられたり

▲鐵道管理局の改革
鐵道管理局を一般會計より離し鐵道廳と改稱し總裁を置き事務官及事務官補を參事主事主事補と改めんとし大屋長官は曾禰副統監と打合せ中なり尚此際冗員の大淘汰をなすべしと云ふ

▲鍋島木内兩氏の進退
鍋島外務部長の轉任は統監更迭に何等の關係なきも木内參與官は種々なる事情の爲に現職に留るべしと（以上二十九日午後發）

外報一束

●佛國水夫罷業 佛國海軍豫備の者より成る海員一團及び波止場人足等馬耳塞に於て同盟罷業せるが彼等は海運業の大部を麻痺せしめんと運動中にて大汽船約二十艘は出帆し得ずして港内に淹留せりと

●日墺同盟風說 獨逸ミユーニッヒに於ける半官的新聞紙は目下日本墺太利兩國政府の間には兩國の一が露國と開戰したる場合相互的一致行動を執らんとする協議進行中なりと報せり

●滯納税の免除 清國にては歷代の皇帝即位の初に方り人民滯納の税金を免除するの例ありとて上諭を下し滯納税免除方を度支部に命ぜりと

●競馬會の確定 浦鹽よりの報に依れば日露の競馬會は九月五日、八月、十二日、十五日、十八日、十九日の六日間施行に確定し出馬總數三百莫斯科よりも出馬す可しと

●日本漁夫遭難 アラスカ通船コロンビヤ號は四月三十日ユニマック海峽にて沈沒せるが同船には二百名近くの船客あり内九十六名は鮭捕の日本人漁夫なりしが數名を除く外船客に異常なく救はれたり難破當時乘組の伊太利人等は周章狼狽し醜態を極めたるも日本人の態度壯烈なりしには外人總べて驚きたりと

雜報

●地久節と祝電
一昨二十八日は我皇后陛下の御誕辰日に當らせられたるに依り韓國皇帝皇后より我皇后陛下に對し左の祝電を發せられたりと

皇室益々隆昌

右に對し我皇后陛下より一昨夜韓皇帝並に皇后に對し左の答電ありたる由

陛下の懇篤なる祝詞を感謝す

●本年度租税徴收額
度支部司税局の調査に係る三月末現計隆熙三年度租税徴收額は左の如し但し右の内地税に於て六千四百十圓の缺損額あり（圓以下切捨）

種別	調定額	收入額	未收入
地税	六、九三五、四〇五	二、八九三、二四四	四、〇三五、七一九
戶税	一五九、四九〇	六、三六五	一五三、一二四
水產税	七、二九〇	三、八〇四	三、四八五
鹽税	六、三一三	五二九	五、七八四
鑛税	一三、八七二	四、七三三	九、一四〇
雜税	二四、三三三	六、〇九一	一八、二四〇
合計	七、一八六、七〇三	二、九一四、七八五	四、二五九、〇九三

●新舊統監入京
曾禰副統監は兩三日中統監に親任され來月七八日頃着任すべく伊藤公は新統監と同道入京する旨統監府へ電報ありたりといふ

●道書記官會議要項 各道書記官會議は既報の如く六月一日より開會さるべきが各部よりは訓示、注意、諮問及協議の四事項に分ち各書記官の意見を徵すべしと

●節會と酒饌下賜 去る二十七日は卯月八日節會に相當するを以て太皇帝には義親王を始め各皇族を招き德壽宮に於て酒饌を賜はりたり

●米國武官の視察 去る二十三日入京したる駐日米國大使館付武官アイジョンス氏は目下西大門內ソンタク邸に投宿し京城に於ける諸般の狀況を視察しつゝありと

●通話料の廢止請願 京城、龍山間電話通話料廢止及同間に於ける通話線增加の件に就き昨二十九日京城商業會議所會頭中村再造氏の名を以て池田通信管理局長宛て請願書を提出したりと

●鑛業所擴張と錐器 平壤鑛業所擴張の第一着手として鑛質の調査に着手すべしとのことは既報の如くなるが之れに要するダイヤモンド附の錐二臺は吉川技師目下東京に於て奔走中の由にて六月初旬到着の筈なれば之れと同時に鑛質の大々的調査に着手すべしと云ふ

●總會報告書配付 東拓會社にては去る二十二日の株主總會に於て承認を求めたる財產目錄、損益對照表、及利益分配額並に株主名簿等を一括して印刷に付し近々日韓人株主七千九十人に夫れ〲配付する筈なりと

●警備電話の架設期 既報以外の警備電話架設に就ては内部は之に要する經費金二十萬圓を豫備金中より支出する旨度支部に向つて請求したる由は既報の如くなるが目下閣議に提出中なれば不日之れが裁可を見るに至るべければ同電話

●法令周知法の困難 各部より地方民に法令の周知を爲すの方法は之れを觀察使に傳へそれより面長、里洞長の手を經る順序なれど一般人民に周知せしむるは頗る難事業にして之れが爲め行政事務の運滯を來たすこと多く殊に新税施行の如きは其法令を知らざるものありて當局者は甚だ困難し居れりといふ

●獸疫と豫備金支出 從來韓人は獸疫の發生を隱匿するの弊あるに依り當局者は之れに懇諭を與へ血精の注射を勵行したる結果近來其の効能を認め續々申請し來るものあるに就き其筋に於ては咸鏡北道の如き獸疫の猖獗なる地方に對し九千二百餘圓の豫備金を支出する筈なりと

京城漫畫（其七） 南大門外 ケー、エム生

地方の樣子はこんなもの…………

●南浦と清國密獵船 或る人の談に過般鎭南浦近海に出漁し來りし清國密漁船乘組漁夫は同地水產會社と清國領事と談合の上悉く之を同會社に傭ひ入れて漁業に從事せしむることゝなり從つて其捕獲せし魚族は皆同會社の市場に水揚げしつゝある現況なりと

●水原行啓と扈從員 既報の如く韓皇后には來る六月一日水原勸業模範場に行啓あらせらるゝにつき左の諸氏扈從を命ぜられたりと

李完興君、李內閣總理大臣、閔宮內府大臣、趙農商工部大臣、尹侍從院卿、小宮宮內府次官、尹皇后宮太夫、多田宮內府大臣秘書官、金宮內府秘書官、高、劉兩掌禮院禮式官、青山宮內府事務官、朴侍從院典醫、安典膳司掌膳、佐伯宮內府官房事務囑託

●派韓隊の來京期 臨時韓國派遣步兵第二聯隊第一大隊は小山同大隊長指揮の下に去る二十七日午後十一時五十分梅田發軍用列車にて西下し二十八日午後十時三十五分廣島着二十九日宇品拔錨の御用船吉林丸に搭乘今三十日釜山着の豫定なる旨其筋へ通報ありたる由なれば京城着は三十一日頃なるべしと

●活牛檢疫所建築着手 釜山鎭に全韓國の輸出活牛檢疫所を設置すべき由は既報の如くなるが其後該設置に關し當局者は實地の視察及び建築計畫等を取調べたる結果愈々近日中より其建築に着手すべき筈なるが第一着手として該檢疫所の井戶を掘穿し井水の成蹟によりて建築に着手すべしと云ふ

●漁業者と添付地圖 漁業免許願書には漁場圖を添付して差し出すべき規定なるが往々業者漁の無知なるに乘し測量費と稱し法外の報酬を貪る代書人ある由なるが元來漁場圖は素人にても出來るものにて漁業者が是等の代書人に惑はされ非常に手數のかゝるものゝ如く心得て多額の手數料を取らるゝは誠に困つたものなりと水產局員は語れりと

●鑛業所と開平炭坑 平壤の鑛脈は其の傾斜五十度にして南東に傾き炭層は十尺乃至十五尺なるが斯の如く勾配の急なる爲め之れを採掘するは九州地方の如き傾斜少なき採掘法に據ること能はざるより農商工部に於ては之れに類似の清國開平炭坑を視察するの必要を感じ和田博士村田技師の兩氏を派遣し實地を視察せしむる計畫ありと云ふ

●天一銀行臨時總會 近々新築家屋に移轉すべき大韓天一銀行にては廿二日明月館に於て臨時株主總會を開きたるが出席株主五十五人株數千九百五十六株遠山支配人增資の理由及方法、定款改正の事項を說明し重役白完爀、尹晶錫氏も交々增資の必要を演述し株主洪忠鉉氏の贊成演說あり滿場一致を以て五十萬圓增資及之に伴ふ株數を三千株より一萬株に增加することを決議し監督官廳たる度支部に向ひ認可を申請中なりと

●司法官及典獄會議 昨二十九日は各司法官倉富法部次官々邸に參集し協議會を開き監獄官は前日に引續き法部に於て各典獄の提出せる協議事項に就き會議したりと

●帝室債務決定（承前）

一金千五百圓　前景祐宮小次知金憲周外十二名
但開國五百三年より光武十年に至る十三ケ年間に前景祐宮に納付したる各種物品代金未拂額四千九十二圓の請求に對し上記の金額を支撥す他は支拂の義務なしと認む

一金一千圓　前龍洞宮小次知李重治外二名
但各種物品の未拂代金

一金三萬九千六百二十六圓　前壽進宮……
……二十七ヶ年間に於て請願人が前壽進宮に納付したる各種物品の代金にして請求額十三萬千四圓に對し上記の金額を支拂ふ

一金一萬千七十四圓　前於義宮庫直申昌潤外六名
但光武五年より同十年の六ヶ年間に於ける物品代金請求額三萬七千四十圓に對し上記の金額を支拂ふ

一金三万二千七十一圓　請願人　金德秀
但光武八年より四年間に於て景孝殿其他皇室に上納したる祭物費未拂額十万六千九百圓の請求に對し支拂ふ

一金二萬千九百四十圓　京城　李奉天
但皇室上納したる祭物費七萬三千餘圓の請求に對し支拂ふものとす

一金八千九百三十六圓　京城　尹德源
但皇室に上納せる物品代金二万九千七百八十八圓の請求に對し支拂ふ（終）

●●●●●韓國水產誌配布 農商工部水產局にて韓國水產誌を編纂中なることは既報の如くなるが既に第一輯の印刷を終へ近く日韓の各官廳及び水產に關係ある團体及び個人へ配布する由

●●●●●●釜山商會會頭確定 釜山商業會議所會頭は第一銀行支店長野口弘毅氏に決定せしなり

●●●●●仁川の出入船舶 仁川港一昨日の入港船は吉辰丸一隻出港船は吉辰、共同、大石、木浦の四隻にして其の乘船者は男百三十八名女十五名なりと

●●●●●●松井局長の東京發 松井警務局長は昨二十九日午後二時東京を出發し廣島及呉に立寄り歸任の筈なりと

●元山方面の鰊漁況 元山方面に於ける本年度の鰊漁況は數十年來稀なる凶漁なるが其有望なることは何人も是認せる所にして之れに改善を加ふるときは益々有望なる事業たるべし、今左に日韓人の營める鰊漁業に就き其の概況を述れば▲鰊漁場は咸鏡南道德源郡文川郡永興郡の沿岸及諸島にして二月より三月上旬に亘り漁具の建設を爲し▲漁期は三月上旬より四月下旬迄にして釜山灣迎日灣より遲るゝこと約二ケ月なり▲漁具は防簾（桶、兩桶の二種あり）擧、揮羅等七種ありて韓漁夫は以上三種を使用し日本漁夫は角網、瓢網、猪口網、壺網を使用せる由▲漁獲高は四十一年度に於て一漁場防簾三百圓、擧網同五百圓、角網八百圓、猪口網六百五十圓、壺網同六百圓ありたるか日本漁夫の漁獲は韓人に比し其倍額なれば韓漁夫も亦日本漁夫と同一の漁具を使用せしむる時は正に倍額の漁獲あるべしと云ふ

本日の集會

●●●●京城基督教會 日の出町の同教會にては午前九時より日曜學校同十時より米澤牧師の「靈火の燈者」午後八時より同牧師の「基督魂の發展」と題する說教あり

●●●●京城日本基督教會 旭町四丁目の同教會にては午前八時半より日曜學校同十時より石原牧師の「ペンテコステを思ふ」午後八時より同牧師の「人はパンのみにて生るものに非ず」と題する說教あり

……義」終りて同開教使の「名號とは何ぞ」と題する說教あり

●●●●メソヂスト教會 旭町二丁目の同教會にては午前九時より日曜學校同十時より木原牧師の禮拜說教夜七時より同牧師の傳道說教あり

公人私人

▲內藤潔（日韓瓦斯會社技師） 來京中の處廿八日龍山へ
▲奥田種彥（大邱金融組合理事） 同日歸邱
▲守田五百足（公州普通學校教監） 廿八日入京東海へ
▲井上嘉吉（晉州普通學校教監） 同上
▲竹尾義濟（公州裁判所判事） 同補尾へ
▲角田一郎（駐韓軍付步兵中尉） 同牧野へ
▲田結柳三郎（慶南道書記官） 道書記官會議に列席の爲め廿八日入京山本へ
▲水口隆三（財務監督局事務官） 三十日大邱へ

近事片々

▲淡暑 漸く加り菖蒲桐の花將さに色褪せんとし牽牛花の時代に入らん朝寢坊稍起す
▲夏は 人間と自然の接近する時所謂樂は夕顏棚の下涼裸躰は自然との接近を意味す
▲赤裸 々となりて天然に親む人間の俗腸を洗ひ長閑に涼風に煽がる是ぞ脫俗の頂上
▲伊公 既に京都より大磯に歸り直に京に入る統監更迭發表も近きにあらん惜むも愁々
▲韓國 統治に伊公は全く無關係となるや或は最高顧問として永遠に關するや疑問也
▲乃公 に非ざれば能く韓國統治を完ふするものなからんとの自負心は消滅せるや否
▲祖國 新聞の多くは曾禰子の賭博的趣味を氣嫌ふ片々亦此點に就ては憂心なからず
▲雖然 曾禰子迚重大の責任を負ふては例の如く呑氣に其趣味を發揮する事なからん
▲統監 として眞に韓人を指導啓發するには飽迄廉潔の德なかる可らず注意すべき也
▲東京 の雲行定らざる爲に韓廷も兎角落付ず皆浮腰になりて揣摩臆測に日を暮らす
▲朴內 相何の用事ありてか車を八方に驅りて訪問に忙はしと老人宜加減に靜止せよ
▲韓人 中には比較的廉潔なりと許せられたる齊純君の評判近頃宜しからず注意肝要
▲邦人 中には未だに法螺を吹きて韓人の家を說き廻る厄介者ありと聞く御制裁を要す
▲十年 以前には此種の浪人多かりしも今は斯る者なしと思ひしに惜もまだ盡きぬか
▲韓人 を籠絡して或る種の利を吸はんとするが如きは甚だ卑屈日本男子の業ならず
▲石井 外務次官の凡骨は夙に聞く所なるが近頃益々其眞相を露せりとの說あり異乎
▲倉知 政務局長とて豪くもないが此倉知の方が石井に優ると云へば其の凡知るべし
▲珍客 チロル氏近々大隈伯を訪はんとし霞ケ關邊には頻りに頭痛なりとは何故にや
▲モリ ソン博士の排日通信は自己の手に成れる者に非ずと辨ず是は眉に唾の必要有
▲維也 納邊には日墺提携論眞面目に唱へらると云ふ而も排露的意味に於て也とは怪
▲伯林 邊よりの流言か或はエレンタール

●人夫賃引下紛擾

仁川穀物協會及び紳商會社協議の結果本月初旬より同地勞働組合の應信聯に對し人夫賃の交渉をなし居りしが過日問題は總て破烈し昨日仁川斗量場に於ける五百余名の人夫は一齊に同盟罷業を企てたるが仁川府の罷業せる人夫は一般に靜穩にして應信聯の解散を希望せるもの〻如く[illegible]りと而して其の煽動者は應信聯にて應は人夫を煽動して罷業をなさしめたるものなる由依つて仁川警察にては萬一を憂へ仁川斗量場に數名の日韓密偵を派し警戒し居れり

●人蔘栽培と褒賞

度支部所管の蔘政課に於ては人蔘の耕作人に對し褒賞規則を制定し其栽培を奬勵する筈なりといふ

●東拓社員の出張

東拓會社調査課[illegible]及び[illegible]書記は驛屯土引繼の爲め三十日出發鮫事方面へ出張すべしと

●警部の更迭

南部警察署詰松下警部は今回警視廳第一課詰となり其後任には新に[illegible]警部なりと

●明石憲兵隊長歸任

明石憲兵隊長は來月一日東京出發歸任する旨其筋へ電報あり

●朴内部大臣の招宴

朴内部大臣は目下來京中の各司法官及監獄官一同を昨二十九日午後六時花月に招待し晩餐會を開けり

●獨乙總領事の訪問

獨乙總領事クリューゲル氏は昨朝統監府に鍋島外務部長を訪問したり

●現金なる本願寺

▲地獄と極樂への宿引料

昔しは仁術と云ひし醫者樣の玄關にも往診料やら藥代やらを小料屋の値段書き宜しく御一人前何錢何厘と書いて貼らるゝ世の中、醫者樣とて人間なれば米も食はうし酒も飲まう然れば此れ等は別段の不思議はなけれど、此れは又然りとは現金千萬なる本願寺客間の張り出し、特別永代經は金何圓より普通永代經は金何圓より是見よがし畢竟は施主への面當と見らば見らるゝ醜体なり、我々在家の者の口より云はるゝ迄もなく出家僧侶の現世に於ける地位は諸階級の何れにも屬せざる超出世間のもの位の事は幾何なんでも御存じなるべし世尊やイエスを呼び來るとも旣に犯せし人の罪が死んでの後のれ經の功德で消ね失すべしとは思はれず抑も僧侶の天職は人田の開拓、福種の植付けなり、死人に對して經を讀むが如きは末の末也、況んや金錢の多寡によりて讀むべき經をハショッたり永代經に普通だの特別だのと區別を付て置く計りかノメノメと耻かしくもなく人に目の付く客間へなど張り出されたもの、虛業に走れる人の子の弱點を矯正せんとは思ひもせず、却て夫れを利用して不正の財を貪らんとす言語道斷の處置ならずや、縱令黄金を山と積み高僧智識にれ賴ん申して一切經を何萬遍讀み上げたとて地獄に行くべき亡者が何うして極樂へ行かるゝものか三等でも一等でも落着く先は決まつて居る、如斯ボン引坊主のワナに罹つて詰らぬ錢を棄てぬ樣御注意申す、此の位で止めないと法律とやら云ふ恐ろしい學問なされた方丈樣に權利義務だと脅されてはと一先づ玆に筆を擱く

●喧嘩は兩成敗

本町一丁目裏通り口入業大倉長藏（三六）は豫て同地飲食店野村梅次郎（四八）方へ去る五月一日柴田かはると云へる女を酌婦に周旋し其前借金の内二十五圓の殘金あるを以て屢督促を爲したるも梅次郎は更に之を仕拂はざるにぞ長藏は一昨夜十時頃酒氣を帶びて同家に至り口論の結果立廻りを初めたれば之を聞付けたる長藏の同居人丸目淺右衛門旭町一丁目本室竹五郎同町壽司屋の竹田某及び來合し居たる龍山和歌の屋の帳場某外二名は寄り合つて梅次郎を袋叩きにし數ケ所の擦過傷を負はせたれば梅次郎は疾病休業五日の診斷書を添へ南部署に告訴したるが是れと同時に長藏も負傷し疾病休業七日の診斷書を作製し梅次郎を對手取り告訴したるが何れ此の喧嘩は兩成敗となるべし

紳士の遊興振

●澤田牛麿君

統監府書記官にして韓國内部地方局長たる君は一名牛チン君と云ふ君は曾て職を警視廳に奉じ例の燒討事件に關係を持つた一人で體の矮少な割合に膽は大きいと云ふ評判ドッコイ其評判よりも令閨の美人と云ふ評判の方がより以上高いと云ふてだ處が君に限つて世間並の男の如く美人の令閨に忠義立をして五月蠅く思はるゝ樣な野暮亭ではない、却つて令閨に留守居をさして大に威嚴を示す方だ、されば君は屢々樓上の人となる君は多く飲まざるもビール又は葡萄酒（但し單獨では云はず）一度び樓上の人たるは相當用る樣子だ、そうして其遊興振は大にシンミリした時と大に騷ぐ時とがある其大に騷ぐ時になると侍せる藝妓に命じミツ調子で十八番の浪花節が出るア〻小さな体からドウシテと思ふ程不思議に大きな聲で……

「ゲダーいは前夜のヨミー續き」と扇を以て机を叩けば樓上の梁も鼠と共に落ちると云ふ有樣、並居る藝妓仲居の面々は只節廻しの巧妙なるに驚いてマサカ澤田さんは吉川虎丸の弟子でもあるまいにと云ふ位ださす、處が君は韓國側の役人となつて以來韓人との交際上時々妓生とも遊ぶそうだが此妓生をして浪花節の判かるまで敎込む積りでオット大變昔迄言はれぬ……（投稿歡迎）

次は熊谷民長

◉新町だより

相變らず不景氣にて一昨夜の登樓客は八十五人此費消高僅かに四百二十九圓八十四錢なるが此内第一樓本店の十五名と七十圓三十錢が最高にして始終第一位なりし皆春樓は近來更に振はず▲一昨日は定期檢梅なりしが前回より引續き入院せるは皆春の式部第一樓の園枝滿月の若松、南山の南榮、小福、山遊の千代松の六名にして休業通院が大桝の千代鶴、小蝶松榮の妻吉、[illegible]の忍、山遊の房子、愛吉の六名なり其外休業せざるも病氣に罹り通院せる者は二十六名なりと

●海賊と貨幣僞造犯

昨紙詳報せる仁川近海にて七名の船夫に縛せられたる海賊朴泰根（三十八）及び李根燮（三十）の兩名及び江華島の貨幣僞造犯人五名は過日來仁川內洞派出所に留置し取調べ居たるが昨日右七名は裁判所に護送せられたり

●白糸拍子の御灸

新町大桝屋抱へ白糸拍子事並木いち（二三）は去る十四日午後十時五十分認可を受けずして外出し大和町に住居せる某色男に逢はんと迂路〱して居る處を憎くや查公の爲め見付けられて告發となりしが昨日南部署にて科料金一圓に處せらる

●小便料五十錢

本町七丁目六十八番戶左官職近藤直太郞（三十五）は二十六日午後一時二十分頃永樂町二丁目街路に於て放尿なしたる科により昨日南部署に於て科料金五十錢に處せらる

●空樽を出して科料

本町二丁目五十二番戶漬物商日下部喜太郞（三十）は去る二十六日自宅前街路に空樽を放置し交通の妨害を爲したる廉に依り昨日科料金三十錢を申渡されたり

●自轉車乘の違犯

南大門通二丁目敗野方店員貝塚安太郞（二二）は號鈴を有せざる自轉車を乘用せし爲め昨日三十錢の科料に處せられたり

●樂友會の音樂會

樂友會にては來六月二日午後七時半より南山町京城ホテルに於て第九回音樂會を開催する由なるが這回は會員其他同會よりの招待者のみの會合にて一般の入場はこれを謝絶するも樂友會入會希望者は同會場に於て入會の手續を了し即時入場することを得る由尙今回は去る一日より壽町にて敎授を開始せる薩摩琵琶大家有馬氏も出演せらるゝ由なれば時節柄定めて盛會なるべし

●藝妓と密賣春婦觀

花柳子投

◎凡そ殖民地發展の先導者は實に密淫賣婦にありと或は然らん當地に於ても其最も多きは即ち彼等にして今や至る隅にも此等の巢窟ならざるはなし、而して彼れ密賣婦の多くは水呑百姓娘の突出にして其容色に於て最も劣れり所謂寨瀨の拾ひ集めのみ ◎藝妓にも二種あり檢番藝妓と新町藝妓なり、新町藝妓の多くは下女的なり長屋住居の嗜的なり、然し其体格に於ては此社會中確かに優物なり ◎假裝せる高襟的美人は遙かに中檢藝妓に多く此社會に於ては先以て聊か見るに足るものなきにしも非らざるなり ◎密賣婦には比格的從順なるもの多く、新町藝妓にはスヂ者多し、而して中檢藝妓にはヤンチャ者多きなり ◎白晝細紐一筋にて市中を徘徊する者は多く密賣婦にして寢着の儘にダテ卷姿で町内を飛び廻るは新町藝妓なり、此點に至つては流石に中檢藝者に於て優る所あり

◎密賣婦の技能とも言ふ可きは摘み喰ひと放屁なり、新町藝者は無作法と入質と八八、中檢藝者は買ひ喰ひと酒飲みなり ◎若し夫れ遊藝に於ける中檢藝者と來ては頗ぶる話にならぬ寧ろ比格的新町藝者に於て其優る所あるを見る、而して氣力の最も旺盛なるは密賣婦にして次は新町藝者、中檢藝者は遙所に至つて無氣力も甚し ◎聞く新町藝者や密賣婦は口を揃へて中檢藝者の無氣力を笑ふ事甚だし此は中檢開設披露として藝者芝居を開催せんとせしも翠樓の文之助不在の爲め爲す能はざるに因ると想へば是迄に於ける藝者芝居は陰に文之助が指南し居たる者なる事遂に至つて初めて露見す、中檢藝者の無藝無氣力又察するに餘りあり ◎然れども中檢藝者は宿屋官舍の部屋廻りには頗る妙を得居れり而も彼等には各得意あり新町藝者は壽町同町三丁目の裏長屋に情夫と密會し密賣婦は大きなれ尻を振り廻しつゝ晝夜の別なく市中至る處の溫突に相手を撰ばず引張り込みて共に其醜行を演ずる又甚だしきなり ◎密賣婦は一種言ふ可らざる勇氣紛々而も接客に迄同臭傳染して容易に去らずと、此點に至つては流石に藝者なり其生活に於て住居に於て言ふを要せず、されど新町藝者は白粉の臭あり中檢藝者に至つては薰風香復郁たるのみ ◎密賣婦は其末路多く土方の嚊にして他は失鼻の不具者、新町藝者は仲居飲食店又は口入屋の嚊、中檢藝者は待合又は置屋の女將と大概相場は決まつたもの最も伊藤先生今五十年も生存して今の如く國政に參與せば中檢藝者中或は〇〇に任用せらる者無きを保せずとは洒れ

演藝界

◉江川萬吉の足藝 我國足藝の開祖三代目江川萬吉は昨年も當地に來りて大好評を博したるが今又も渡韓し目下明治町東洋拓植會社前の空地に於て興行中なるが彼れが技藝は世既に定評あれば今更玆に記せず尙ほ今回は韓人側にも非常に歡迎せられ連日大入の盛況なりと

▲壽座 田宮一行本日の替りは「五月晴」にして役割左の如し

辨護士黑木（松村）馬丁元造（吉井）花岡時夫（大山）評夫（篠原）遠山新造（篠田）元造父權三（阿部）夫人りふ子（高山）惡漢（中村）愛妾れ松、元造妹れ君（堀江）花岡貞夫（田宮）

▲怪しからぬ奴

醫師「彼奴はホントに怪しからん奴だよ、一昨夜招んで御馳走したら、飲むは、食ふはもう、本當の牛飲馬食さ、其の上に君、山の爲めに病氣に成つたのを外の醫師に行つて診て貰つて居るぢやないか。

平民文庫

投造中傷無用のこと 小便も亦御斷り申候

▲鷄卵を割つたならゝ其表裏一面に殘つた蛋白をなすりつけ別に朝鮮海苔を採んで粉々にして件の卵の殼に付けて御覽なさい丁度少さな鳥の巢が出來ます夫れへ源氏豆を入れると鳥の卵が巢に這入つて居る樣で更に之れを松栽の枝にトマラシて置くと面白いものが出來る（實驗生）▲平民文庫欄への投書として上乘なるものなり（係）▲ヤー僕のが愈々大事件に成たそうだ面白い〱（探檢隊長）▲此の頃の樣に風が多い時には撒水を多くして貰い度い（衛生家）▲大和町一丁目の或る家では每晩パチ〱やつて居るね（通行人）▲オイ〇〇君、然う當てこすりを云つたつて笑ひたくもないよ、へへへ（隣の猫）▲小僧君は相變らず健在でれ目出度う併し餘計なことを云ふのは少し控へたら宜しからう（食慶生）▲ヤ恐れ入つた併し病氣故には死ぬ人もある、私には此の病氣ある爲めに故國にも歸れんのです此れさへ無ければ故國へ歸つて若樣で居られるものを、イヤ因果な性分です（小僧）▲誰れか東京大相撲常設館の開館式當日の豫想勝負を、常と梅は殘念ながら梅に、海に、駒と太刀は無論駒に、西の海と國見は西の海に、何れも勝味のあることを認める（角力狂）▲京城市中の葬式屋で一番親切なのは左文字屋か二タ川屋だ不親切なのは京城葬具社と云ふ事が地獄よりの通信（地獄特置通信員）▲天理敎の源が如何で有うとも現在の敎旨が立派なら差支へないではないか一体今の宗敎を迷信する奴は各自その宗祖を大變俐恰な神聖な者の樣に考へて居るから馬鹿だ世界で一宗の開祖と仰がれて居る敎祖に一人として女に親しまない又酒を吞まぬ奴が在つたか其所へ行くと中山何某なる子は偉いもので身は不文の一賤婦であり乍ら行ひは正しく又其の敎へは無學な女の拵へた宗敎としては比較的立派なもので而も後世に渇仰さるゝに至つては誠に感ず可き事ではないか（公平生）▲元天理敎徒君、以て如何となす一矢酬はざる可らずだらう其處で重ねて注文します可成短文にね（係）▲昨日の當欄に於て同業者中に奸策を回らすものあることを知り得ました感謝に堪ません（質屋總代）▲一寸れ斷り申します昨日掲げた投書も强ち質屋自身で投書したものと云ふ譯けではないのです（係）▲一口噺を一つ、三十五になる男十五の娘に結婚を申込んだが娘の父「歲が餘り不格合です」男「デハモー下の半分でもありませんから」「五年待ちます」自分乍ら拙い（稽古仕度生）

●天氣豫報（自廿九日午後六時至卅日午後六時）

南の風晴後曇

測候所 廿八日 最高溫度 七〇、二 最低溫度 五一、三（華氏）

各種 洗濯石鹸 製造販賣
途用
鐵工、鑛山、水道、
(電話九七三番)

朝日石鹸製造所
●京城市内の御注文は遠近に不拘早速持參可仕候●

▲無料紹介欄▼

人事部

●下女希望 年十九體質なる身元保證人あり堅氣の家に雇はれたし 氏名在社(二六五)
●尋ね人謝金 伊豫松山附近より來る人あれば依頼致度事あり謝金十圓を呈す 氏名在社(二六四)
●行商募集 男女を問はず古着行商希望の人を求む 旭町一の六 京仁商會
●求職 普通教育有り職業を撰ばず至急雇はれたし 氏名在社(二六九)
●募集 裁縫見習生十四歳より十八歳迄一名入用希望者は來談あれ 大和町二の一六八 技藝女塾
●給仕入用 年齢十四五歳の者 本町一丁目 小川勝平事務所(二六八)
●被雇度 年廿五体强中等教育有簿記精通給料多額不望會社商店銀行等被雇たし確實保證人有 氏名在社(二七五)
●明治十一年生の人に御頼み致し度事あり御一報を乞ふ 京城三角町三番地 山内
●被雇度 年二十八身体强健多年建築請負業從事請負業主に雇はれたし給料不論確實保證人あり 氏名在社(二七三)
●告 中村銀次君 往復葉書にて御照會ならすては先方に電話なく通知するに由なし係
●被雇度 土木建築及官衙用達業に多少經驗を有する身元確實なる者同業者に被雇たし高給不望 氏名在社(二七六)
●被雇度 年廿五普通教育有る婦女會社病院商店の事務員又奥様ある家庭の上女中に雇れたし保證人あり 氏名在社(二七八)
●開校 私立裁縫徒弟學校開始す希望者は至急申込あれ規則書入用の向は郵券二錢送付す 龍山本町三の六六 吉村又平治

物件部

●貸家 大和町元軍司令部通庭内三百坪西洋二階建廿七坪平家廿四坪電燈電話附會社病院向格安賣又貸度し 氏名在社(二六三)
●氷店賣却 氷店道具一切附屬品共賣却したし御望の方は電話千百八十三番へ
●求借家 韓人家屋にて人通り繁き横丁にて温突五六間の二階建及平家にても至急借受たし場所太平町北米倉町附近を望む 社内柏木(二七二)
●求地所 大和町附近高燥にして眺望好き二三百坪の地所を格安にて讓受けたし 氏名在社(二七〇)

廣告

移轉廣告
今般業務擴張の爲め左記の處へ移轉す
五月 開通
南大門外御成町紅葉館跡
(茂呂運送店前)
戸田病院
電話九三八番

金水舎製ラムネ
衛生無害 **ラムネ、ミカン水**
昨年の通り純良なるラムネ、ミカン水製造販賣仕候間陸續御愛飲を乞ふ
京城大和町二丁目
一

漢城製薬所長薬劑師 渡邊悦之輔

待合 春日

待合 かしく

六月五日ヨリ 夏物大賣出

東京浴衣地類は本年特に澤山荷着致居候間何卒不拘多少御買上の程只管奉願上候

京城本町二丁目
三越呉服店出張所
電話參五貳

明治廿年七月創立● 京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九
東京火災(海上運送)保險株式會社
資本金一千萬圓●事務所 京城本町二の三電話一〇六〇番

皆さんの御勧めあり旭館なる浴衣地の陳列はそのまゝ三十日までつゞけ本店同様一割引にいたします晝夜ともに御來覽を願上ます
もかたデーの御名殘
和洋太物 **丸一**
(京城本町三)
(電話六三五)

特約販賣 自製
漬物 味噌 醤油 製造元
京城本町五丁目
和洋酒、◎精酢、穀物麵類銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣
御望に依り商品切手調進仕候
大上商店
(電話二五一番)

五月二十五日より同三十一日まで
あの夏物賣出し
一割引
太物洋反 カヤ蒲團
あ 秋山商店
おなじみの本町郵便局前
電話九百五番

鴨綠江特種木材九州セメント取次販賣
末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材
京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六
電話五六八番

九州セメント
上等生石灰販賣
京城南山町一丁目電話三四四番
山村商店
龍山元町一丁目 電話三四八番
中村運送店

馬車配達
●●●滋養と牛乳●●●
純良 **牛乳**
京城京四軒町
岡野牧場
電話壹〇六九番
●●●衛生と消毒●●●

▲清潔の下宿▼
客室の清潔と調理の美味と御扱の懇切とを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戸横小路
(元 花屋跡)
▲懇切の下宿▼
かめ屋

男女生徒募集
簿記學速成教授 規則書郵券二錢
但一人毎に教授す何時入學するも差支なし
新式 **官廳簿記學教科書** 代五十錢
京城壽町二の三七
統監邸下
京城簿記學校

最上醤油
山十印
寛永五年創業
米國聖路易萬國博覽會名譽最高賞牌受領
千葉縣銚子町
釀造元 **岩崎重次郎**
韓國一手特約販賣元
京城 **三巴酒店**
(電話七五三番)

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
木版彫刻
コロタイプ版
寫眞版
謄寫版
製本裝釘
今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕從前ノ通營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

桶類 製造大安賣
明治町一丁目横町通
矢野商店

概略營業品目
和洋帳簿諸紙類
文房具學校用品
巻紙封筒手帳類
帽子洋傘クツ靴
洋服附屬品
メリヤス類
毛布膝掛馬車掛
石鹸香水歯磨類
タオル、ハンカチフ手袋沓下袋物類
正札 ㊀ 引なし
官衙、陸軍銀行、會社 御用達
京城本町四丁目
池田長兵衛
電話二百〇六番
和洋雜貨 卸小賣商
●地方よりの御注文は代金引換小包にて發送仕候●

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
伊藤組
本店 京城本町三丁目(電話四〇番)
出張所 同南大門驛構内(電話七三番)

陸軍御用 大韓醫院特定御用
消毒 純良 **牛乳**
京城 **荒井牧場**
電話二〇五六番

諸傘 並に 提灯類
印入
和洋蠟燭あり
京城明治町一丁目
大島商店

西洋料理
京城壽町二丁目
にしき支店
電話七百二十九番
出前仕候

會席御料理
本町八丁目
富士見樓

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 **郡回漕店**
電話三九番
◎釜山長崎門司神戸行
山東丸 六月 六日午後三時
●大連、太沽、牛莊行
高砂丸 月 日正午時
●大連、大沽、牛莊行
山東丸 月 日前五時
●大連、大沽、牛莊行
酒田丸 六月 十七日正午出
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行
立神丸 月 日午後
御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十五錢▲六ヶ月前金貳圓▲壹ヶ年…
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 廣告五號活字十九字詰一行…
拾錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬
發行所 京城新報社
京城西署西小門通
電話六六三番